



東侯野 1月号

東侯野小学校 学校だより

平成29年1月10日

本校の伝統的行事：凧づくり・凧あげ大会

校長 村田 幹男

あけましておめでとうございます。

皆様にとって素敵な一年になりますように。

冬休みを終えて、1月10日から後期後半がスタートしました。今回の冬休みは、休日や祝日との兼ね合いで、前回の冬休みと比べると実質的に6日間も長くなっていました。横浜は穏やかな天候に恵まれましたので、子どもたちは、きっと、元気に、充実した毎日を過ごせたのではないかと思います。また、一年の計は元旦にありといわれますが、今年目標や願いなども話題にできたことと思います。

さて、今月は、本校の特色ある教育活動である「凧づくり・凧あげ大会」が21日（土）に行われます。

この行事は、本校が開校当時から続いており、今年で第30回目を迎えます。保護者や地域の方々が、「子どもたちに、地域の伝統的な凧づくり・凧あげを教え伝えていきたい。地域の方と保護者、子どもがふれあう機会をつくって本校ならではの活動にしたい。」といった願いから始まったと聞いています。その思いを私たち教職員も大切に受け止め、PTAの皆様のご協力をいただきながら企画運営にあたっています。

しかし、近年、凧づくり・凧あげを指導してくださる指導者数が不足しがちという課題が表面化してきました。毎年、開校当時から来ていただいている地域の指導者の方たちにずっとお世話になっているのですが、その方たち以外の、いわば「後継者」の確保が難しいのです。お子さんが在籍していた時には保護者として指導者になっていただいていた方たちも、お子さんが卒業してしまうと、来ていただけるのは難しくなってしまいます。

10年前、20年前と比べると、児童数も増えています。凧づくりをするスペースを考えると、昔は一学年を2グループ編成でできていましたが、今は一学年を3グループに分けないと無理になっています。指導者の数と同時に、空き教室も満杯の状態になっています。

そんな現状を知り一緒に考えていただきたく、今年度は、7月と10月に地域の指導者の皆さんを交えて、話し合いの場を設けました。指導者の皆さんは、「私たちは体の続く限り協力する。」と言ってくださいました。そればかりではなく、2年生向けの新たな和凧も開発してくださいました。

凧づくり・凧あげ大会運営の根本的な課題が解決したわけではありませんが、ずっと支えてくださっている地域の指導者の方たちのバックアップはさらに強いものとなったと感じています。保護者の皆様、今年度も凧づくり・凧あげ大会当日には、ぜひご協力をお願いいたします。